

消化器・肝臓センター



NEW-す



NO. 80

2022.3

脂肪肝の新基準

MAFLD をご存じですか？

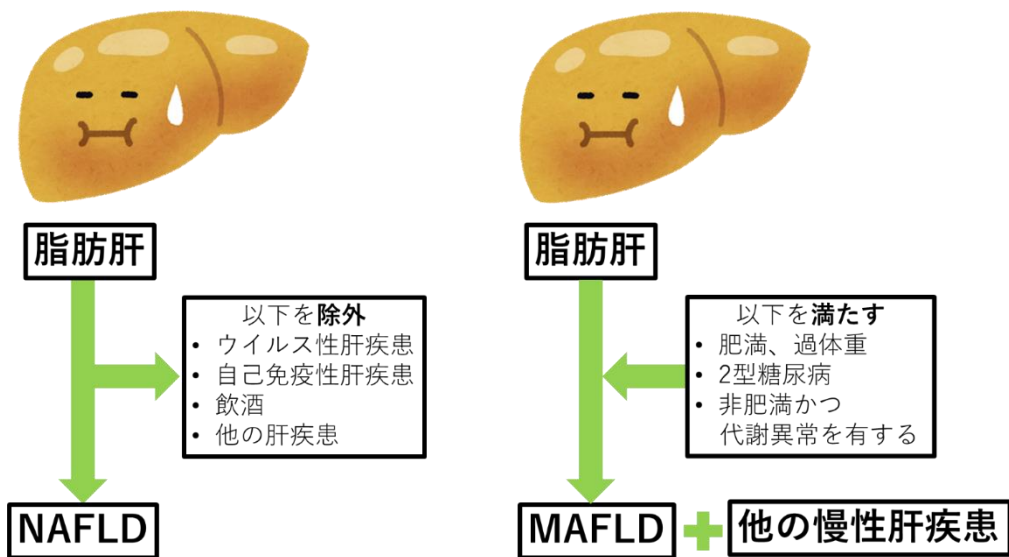
現在のところ脂肪肝の診断基準として、「NAFLD(non-alcoholic fatty liver disease) 非アルコール性脂肪性肝疾患」が用いられています。

そして、肥満や糖尿病などの代謝異常がNAFLD発生に関連することや、肝硬変、肝がんへのリスク因子であることが明らかとなっています。しかし、NAFLDは肥満や代謝異常を診断基準に含んでいません。また、NAFLDの診断はアルコール性やウイルス性肝炎などの他疾患を除外するため、これらを合併している場合には診断ができないという問題点が指摘されてきました。

このような背景のもと、「MAFLD (metabolic dysfunction-associated fatty liver disease) 代謝異常を伴う脂肪性肝疾患」が肥満、糖尿病などに伴う脂肪肝の新たな基準として提唱されています。MAFLDは、脂肪肝に①肥満、②2型糖尿病、③代謝異常のいずれかを合併するものと定義されています。

NAFLDと異なり、MAFLDはアルコール性やウイルス性肝炎などを合併していたとしても診断可能であり、より病態に即した把握ができます。また、NAFLDに比べてMAFLDの方がより多くの肝線維化進行例を拾い上げられたという報告もあります。

MAFLDは代謝異常の観点から積極的にハイリスクの脂肪肝患者をとらえ、臨床病態のさらなる解析や新規治療の確立に有用と期待されています。



参考文献：川口巧ら，日消誌 2021;118:805-814

消化器内科 足立 裕次郎

市立貝塚病院
TEL: 072-422-5865

